www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

# 川崎病

版 2016

## 3. 日常生活について

### 3.1 本人と家族の日常生活にどのような影響を及ぼしますか？

もし心合併症が無ければ普通の生活を送ることができるでしょう。ほとんどの川崎病患者は完全に治りますが、疲れ易かったりイライラすることがしばらくはあるでしょう。

### 3.2 登校はできますか？

一旦、病気がコントロールされたら、普通に治療が行われ、急性期が終わっているなら、健康な子と全く同じ活動に参加して問題ありません。子どもにとっての学校は大人にとっての仕事と同じです。つまり自立と自我確立を学ぶ場所です。両親と教師は普通に何でも学校行事に参加させるべきで、単に学業を成就するためだけでなく友達や大人に受け入れられ、認められるようになることが大切です。

### 3.3 スポーツはできますか？

スポーツをすることは本質的に子どもの日常生活の一部です。治療の目的の一つは可能な限り普通の生活をできるようにすることであり、友達と何一つ変わらない日常を送れることです。心合併症を起こさなかった子どもであれば、日常生活や運動には何の制限もありません。しかし冠動脈瘤を残した子どもたちの場合は、思春期の競争的な活動に参加できるかどうかについては小児循環器専門医に相談した方がよいでしょう。

### 3.4 食事についてはどうしたらよいですか？

食事が病気に影響するというデータはありません。一般的に子どもは年齢にあったバランスの良い食事をすることが大切です。健康的で充分量の蛋白質、カルシウム、ビタミンをバランス良く含んだ食事が成長期には奨められます。コルチコステロイド服用中の患者さんは食欲亢進の副作用がありますので、食べ過ぎには注意しましょう。

### 3.5 予防接種は受けても構いませんか？

免疫グロブリン療法 を受けた後は、弱毒生ワクチンの接種は控えましょう。

どのワクチンを受けるべきかは個々の症例で事情が異なりますので、かかりつけ医に相談して決めるべきです。予防接種が病気の活動性をあげたり、重い有害事象を引き起こしたりはしません。ワクチン関連の有害事象について臨床試験ですべてを明らかにすることはできませんが、不活化ワクチンは川崎病で免疫抑制薬の治療を受けている場合でも安全とされています。
高用量の免疫抑制薬の投与を受けた患者は、ワクチン接種後の抗体価が充分あるか相談してみるべきでしょう。